

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSWニュース 11月号

2015年11月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集 砂川 晴美 (与那原中央病院)

満名 祐子 (与那原中央病院)

地域包括ケアシステムに関する研修会参加報告

～先進地域から学ぶ在宅医療推進と地域包括ケアの取り組み～

ハートライフ病院 徳盛 宏賢



平成 27 年 9 月 19 日 (土) 沖縄県総合福祉センター 1 階 ゆいホールで行われた。

講師：名古屋市医師会 在宅医療・介護連携センター 統括センター長 医療福祉士専門官 黒木 信之氏による上記研修会に参加しましたので報告いたします。

午前第一部では「名古屋市における在宅医療支援体制構築について」国の政策的な背景や現状・名古屋市における取組につて学びました。社会保障給付費 (2012 年度 年金 53.8 兆円・医療 35.1 兆円・福祉その他 20.6 兆円) が国の財源を圧迫する中、国は 2011 年在宅医療連携拠点推進事業で医療・保健・福祉、他職種による様々な支援提供を目的とする地域包括ケアシステムの構築を進めました。黒木氏によると、増大する医療費削減へ向け病院ベッド数の削減、増え続ける高齢者を「どこでどのように看取りを行うか」が地域包括ケアシステム最大の本質と話していました。医療から福祉まで多種多様な福祉制度を縦断的でなく、横断的に調整・対応する事が重要と話しをされ、実際に現場で私たち医療ソーシャルワーカーが日々多様な福祉制度を駆使し支援を行う「視点」がとても重要であるとの事でした。

名古屋市では在宅医療連携支援モデル事業として 2014 年名古屋市昭和区医師会にあるハナミズキプロジェクトの中で医療・介護・福祉、他職種連携によるケアカンファレンスや講演会を行い人材育成・地域の課題・資源の抽出、地域の強み・弱みを挙げ医療・介護・福祉の連携構築を行い地域包括システム支援拠点として、2015 年 10 月 1 日名古屋市 8 区に在宅医療・介護センターを開設すると報告がありました。

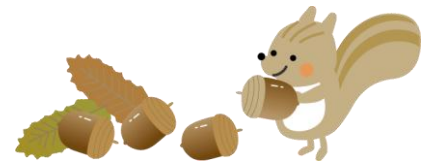
モデル事業の話しを聴き沖縄県内がどのような取り組みをしているか確認が必要だと考えさせられました。午後

第二部では「在宅療養支援アセスメント」についてグループワークを行いました。患者カードシートを確認しアセスメントの重要性、実際黒木氏が在宅支援を行った際用いた患者カードシートを読み取りどのような支援ができるかグループで話し合いました。また、話し合いの後グループで発表し、実際に退院支援～看取りまで撮影した映像を見て、退院支援に向けたアセスメントの重要性を改めて考えさせられました。今回研修を通し、国の福祉政策に目を向け今、何をすべきか考える重要性を学び、同時に医療ソーシャルワーカーとして退院後の患者・家族のエンディングプランの構築の為、アセスメント能力・他職種との横断的な調整能力を磨いて行こうと強く思いました。

CONTENTS

研修会報告	・・・ 1
定例会報告	・・・ 2
県民健康フェア報告	・・・ 3
運営委員会議事録	・・・ 4～5
研修部のお知らせ	・・・ 6
はいさいワーク	・・・ 7
コラム・編集後記	・・・ 8

10月定例会に参加して



ハートライフ病院 川満 慎吾

前半は九州MSW協議会さが大会研究発表の予演会が行われ、中頭病院の嘉陽さん、那覇市立病院の高江洲さん、北中城若松病院の香村さんの3名による発表でした。どの発表も興味深い内容でした。

後半は「今後のADLについて家族の理解が得られず長期入院となった患者のケース」というテーマのもと事例検討を行いました。今回初めて事例を提供しましたが、無事に検討することができて良かったというのが本音です。私がMSWとして勤めて2年目に担当したケースでした。援助過程で「これでよかったのか」「他に方法はあったのだろうか」と日々悩んでいたことを今でも覚えています。事例検討を進める中で、主に次の2点について気づきがありました。①患者本人が支援の輪の中にいなかったため、本人に寄り添った支援という視点を考えると、病状説明や今後の方向性を検討する際に本人もしっかり交えて話し合う必要がありました。本人も交えることで違った展開になったのかもしれませんが。②退院支援のみに目が行きがちであったため、本人・家族そのものの理解や、家族の訴えの背景にある思いまでしっかり理解する必要がありました。また、その過程でMSWとして何ができるのか、どんな助けになるのかを本人・家族に説明する必要もありました。

様々なアドバイスやご意見を頂く中で、MSWの役割や本質についても見直すきっかけになり、とても有意義な時間となりました。日々の業務の中で、援助終了となったケースについて振り返る時間も少ないのが現状です。振り返りの時間もしっかりと作っていきたくと改めて認識しました。

那覇市立病院 総合相談センター 比嘉 優理

10月14日、北中城若松病院3階講堂にて定例会が行われました。

最初はさが大会研究発表予演会として、宮城幸之助さん(中頭病院)、高江州アヤ子さん(那覇市立病院)、香村真範さん(北中城若松病院)の発表とハートライフ病院の川満慎吾さんから提供された「今後のADLについて家族の理解が得られず長期入院となった患者のケース」について、3グループに分かれて事例検討を行いました。4月からMSW協会に加入した私は、他病院のMSWの方と事例検討するのは今回が初めてのことでした。このケースは骨折を機にADLが低下した患者さんとそのご家族さんへの退院支援を行ったもので、私も整形外科を担当する相談員として、本人・ご家族への理解に繋げるために悩む場面は共感する部分がとても多かったです。ケースを通して川満さんの疑問点となった「どのように支援すればもっと早く退院に繋がられたのか」を各グループで検討することになり、当初、私の中では「社会資源の有効活用方法」について主な内容になると考えていました。しかし、グループの意見は「MSWとしての立ち位置」に関する視点が多く話されました。

患者側に寄り添い、医療スタッフをはじめとした関係者との繋がりをサポートすることがMSWという仕事であり役割であること。私の当初の推測は、より早く退院に繋がらないといけないという環境の重圧で、無意識にも医療側の意見に偏りがちになっていたことに気づきました。クライアントやその家族の意見を尊重するということは、シンプルな話のようで見落としがちな部分でした。そうした部分を意識することで自分の役割がより明確になり、円滑な人間関係の構築と連携に繋がるのだということを学びました。

私自身もMSWとしての姿勢を振り返ることができ、とても実りある定例会となりました。これから関わるケースに対しても、悩むたび立ち止まり、自分を見直す努力をしていきたいと思えます。

沖縄県保健医療福祉事業団体助成事業への参加報告

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
大城 成子

10月10日（土）13時～16時に当協会主催で、県民健康フェア『医療と介護の仕事とお金』と題したパネル展示会が、南風原ジャスコ店の1階イベントコーナーで開催されました。

昨年のうるま市での開催に続いて2年目になります。私は当日の運営スタッフとして、11時集合の会場設定の準備から参加しました。イベントでは参加者へクイズの景品をお渡しする役目でした。

まず、会場のパネル設置準備から始まりました。介護保険サービスに必要な手続き、病状や回復段階などによって入院する病院が違ってくることが、大きなパネルでわかりやすく紹介されていました。パネルの内容が簡潔に整理されており、パネル作成が大変だったのではないかと思います。社会福祉関連のパンフレット・ポスターの他に、ソーシャルワーカーが主人公になった漫画本も用意されました。

会場の準備が整ったところで、スタッフ全員が青い法被を着て、買い物で来院したお客様に声かけしていきました。今年から医療ソーシャルワーカーの紹介パンフレットも作成したとのことで、そのパンフレットを配布しながら声かけしました。最初は気恥ずかしく、病院で初対面の方と面談する時より緊張しましたが、少し落ち着いてきて、パネル展示会の趣旨を話すことができました。

お客様が、「おっ、イベントやっているの？覗いてみようかな」とその気になったところでイベントコーナーに足を運んでいただき、入り口でクイズの用紙を渡します。クイズは介護や入院の制度についての基本的な問題で、展示パネルの中に答えがあります。私たちスタッフがお客様と一緒に歩きながら、説明やヒントを出したりして、パネルの中から答えを探して、クイズ5問に回答していただきました。お客様からは、医療ソーシャルワーカーについて質問されたりして、存在をアピールする機会になりました。

正解された全員（間違ったらパネルでおさらいです）に景品がプレゼントされました。景品コーナーでは、あれもいい！これも素敵！どれにしようかな…と盛り上がりました。景品選びを楽しんでいただき、皆さんが笑顔で会場を後にしました。イベントに参加いただき、ありがとうございました。

私も14時30分には後半担当のスタッフと交代し、お役目修了。心地よい疲れを感じながら帰途につきました。

南部徳洲会病院 玉城 唯

平成27年10月10日 南風原イオンにて健康フェアのイベントにボランティアとして参加しました。イベントでは、病院の仕組みや福祉制度の仕組みをクイズ形式で地域の方たちに知って頂くことを目的とした内容でした。家族連れや子どもたちが多く参加しており、イベントの目的を達成できたのではないかと感じました。また、医療ソーシャルワーカーという存在を少しでも多くの方に知って頂く機会に繋がったと感じました。

今回、ボランティアを通して地域の方と交流することで私自身も楽しみながら参加することができました。

27年10月運営委員会議事録

開催日時：2015（平成27）年10月19日（月）18：45～

出席者：當銘（司会）、新垣、伊禮、新城、望月、奥平、池間、島袋、安慶名（書記）

研修部より：望月（ハートライフ病院）、

■ 11月定例会

日 時：11月7日（土）14時～17時

8日（日）9時～12時

場 所：あいあい手作りファーム

講 師：竹沢昌子氏（名桜大学人間健康学部 上級准教授）

内 容：「面接技術について」

懇親会：あいあいファーム内で調整

研修 30名、懇親会 24名参加予定

■ めだかの放課後

日 時：平成27年11月19日（木）19：00～21：00

場 所：中頭病院 2階会議室

内 容：①さが大会での学習発表内容の最終確認

②放課後メンバーでの研究企画について

③その他

■ めだかの学校

日 時：11月 日（ ）18：30～20：30（内容 病院見学調整中）

広報部より：新城（小祿病院）

広報紙・・・11月号担当：MSW 砂川・満名（与那原中央病院）

社会活動部より

■ 健康づくり運動実践活動団体助成事業助成の報告

日時：10月10日（土）13～16時

場所：イオン南風原1階（南風原町）

内容：啓蒙活動（クイズ）

リーフレット（2000部）チラシ（300）配布

一般の方230名ほどの参加があった



事務局より：當銘（大浜第一病院）

- 新規入会 2 名、退会 2 名あり。
- 今年度会費引き落とし 10 月 19 日。残高不足で引き落とし不可だった方は、年度末に再請求予定。
- 沖縄県介護企画事業
「入退院支援連携デザイン事業（案）」

事業概要

医療機関から在宅・施設への移行の一連の流れが円滑に行えるような連携・協同体制づくりを図る

事業体制

沖縄県からMSW協会へ委託

MSW協会で、プロジェクトチームを立ち上げ、ケアマネ協会へも協力を仰ぐ。

- 九州協議会より義捐金の依頼。

□永良部の被災者に対し、沖縄県協会員一人あたり 200 円の義捐金を寄付する。

〈その他〉

◇「入退院支援連携デザイン」の情報提供項目について

- ・ 情報提供の項目をMSW協会ですべて統一して、ケアマネへ情報提供していく。
- ・ 書式は各病院の実情に応じて任せる。
- ・ できる限り聞き取りできた項目のみ、情報提供していく。
- ・ MSWから情報提供があったということがわかるように、書式のタイトルは「MSWサマリー」に統一する。
- ・ 平成 28 年 1 月よりスタートし、6 月に県CM協会、MSW協会にアンケートとり、周知がどの程度か把握していく。
- ・ 書式を新たに作成する予定の病院のために、モデル書式を作成する。

◇がんフォーラム

「がん患者さんに対する相談支援」と題し、那覇市立病院、島袋京子氏が発表した。

日本医療社会福祉協会の、ソーシャルワークデータシステム体験会に参加したMSWiは、各県で伝達講習を行うよう依頼あり。県MSWよりハートライフ高澤参加済み。皆へデータを配布予定。

次回理事会：11月16日（月）18：30～司会：新垣 書記：泰 連絡係：石郷岡



研修部の平成27年11月の予定

定例会※宿泊研修会

平成27年11月7日(土)～11月8日(日)

11/7(土) 14:00～17:00

11/8(日) 9:00～12:00

場所：あいあい手づくりファーム(今帰仁村湧川369)

内容：「面接技術について」

講義とワークショップ

講師：竹沢昌子氏(名桜大学人間健康学部 上級准教授)

※事前申し込みが必要です。詳細は与那原中央病院池間氏まで。

めだかの放課後

日時：平成27年11月19日(木) 19:00～21:00

場所：中頭病院 2階会議室(沖縄市知花6-25-5)

内容：①九州さが大会演題発表の最終確認

②放課後メンバーでの研究計画について

③その他

めだかの学校

日時：平成27年11月21日(土) 午前中※時間調整中

場所：おもととよみの杜

内容：施設見学(回復期・医療療養・老健・特養など)

問い合わせ先：沖縄赤十字病院 長田しのぶ氏 TEL836-5691



はいさいワーク NO. 74 (2015年10月20日)

1. MSW 募集情報

① 県立南部医療センター・こども医療センター

募集：1人

雇用形態：嘱託（契約）

勤務時間：月～金 8：30～17：00

休日：土日祝祭日

手当：通勤手当（2km以上）

資格：社会福祉士取得者が望ましい

【問い合わせ先】

県立南部医療センター・こども医療センター

地域連携室 新崎／奥平

電話：098-888-0123（代表）

②那覇市立病院（*詳細は、公式HPに掲載中）

募集：1人

雇用期間：平成27年12月1日～平成28年3月31日（更新可）

雇用形態：非常勤（フルタイム）

勤務時間：月～金 8：30～17：15

休日：土日祝祭日、年末年始、慰霊の日

資格：社会福祉士取得者

【問い合わせ先】

那覇市立病院 総合相談センター 樋口

電話：884-5111（内線：127）



コラム

Y.M.

当院は救急、急性期病棟・回復期リハビリ病棟を併設している県内では数少ない病院の一つです。そのなかで私は回復期リハビリ病棟を担当しています。

回復期リハビリ病棟では、入棟当初は一人でベッドから起き上がることができなかった患者様がリハビリでどんどん動けるようになり、歩いて自宅へ退院する姿を見ることができます。その時はとても嬉しく、回復期リハビリ病棟の醍醐味だと思っています。

しかし、救急・急性期病棟がある当院では回復期リハビリ病棟を退院して間もない患者様が救急車で再入院してくることもちらほら……。その原因は様々です。転倒して骨折、肺炎、脳卒中等々……。

再入院の報告を受けた時は毎回残念な気持ちと、退院のタイミング・サービス調整は本当にあれでよかったのか、自宅へ帰ってよかったのか等、担当セラピストと悶々としします。

逆に、退院した患者様が元気に定期通院で顔を見せてくれるとほっとします。

MSWの仕事は正解がなく、迷うことも多々ありますが、患者様の元気な姿を糧に他職種の力を借りながら頑張っていきたいです。

[編集後記]

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋・・・皆さんはどのような秋をお過ごしでしょうか？

私はというと“腸炎の秋”を過ごしておりました（泣）小学校3、4年生の頃の体重まで落ち、先日友人とショッピングに行った際、ワンピースを試着したところ、友人より『鬼太郎に出てくるイッタンモメンみたい！』とのコメントを頂きました（汗）その日からワンピースが普通に着こなせる体型を取り戻すべく、“増量の秋”へシフトチェンジし、カロリーやコレステロールなんて気にせず、食べたいものを食べ、ウエイト増に励んでおります。

お忙しい中、快く原稿を引き受けてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp>

